

Title	現代イギリス文学・文化における老いの意味と経験、主体性の研究
Sub Title	Ageing and subjectivity in contemporary British fiction and culture
Author	迫, 桂(Sako, Katsura)
Publisher	
Publication year	2017
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2016.)
JaLC DOI	
Abstract	世界的人口高齢化が進行する今、老いの経験を多角的に、かつ、主体的な視点から理解することの重要性が増している。本研究では、文化テキストにおける老いの表現を分析し、老いの文化的意味、及び、それを規定する価値体系を考察した。具体的には、欧米圏と日本で生産された小説、映画、漫画作品を主な対象として、老いの表現を分析した。特に、認知症と介護のテーマに注目し、表象と介護における倫理的側面について考えつつ、老いや認知症の言説の根底にある、人間主体についての考え方そのものを再検討した。結果として、文化作品が、老い・認知症の言説を再生産するのみならず、それを精査、修正、刷新しうることを示した。 As population ageing progresses globally, it is increasingly important to understand ageing from multiple and more importantly, subjective perspectives. Through the analysis of various cultural texts - novels, films and comics - from Anglo-European contexts and Japan, this project has examined the ways in which the experience and the meaning of ageing are shaped, culturally, socially and politically, and has interrogated the structure of ideas that underpins the discourse of ageing. Focusing on dementia and care in particular and the ethical questions they raise, it has reconsidered the normative conception of the human subjectivity and agency, which privileges independence and production, a conception that underlies the discourse that objectifies the ageing subject or the subject with dementia. The project has revealed different ways in which cultural texts may expand, as well as reproduce, the dominant discourse of ageing and dementia through imaginative narratives.
Notes	研究種目：若手研究(B) 研究期間：2013～2016 課題番号：25770115 研究分野：英文学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_25770115seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



平成 29 年 5 月 31 日現在

機関番号：32612

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770115

研究課題名（和文）現代イギリス文学・文化における老いの意味と経験、主体性の研究

研究課題名（英文）Ageing and Subjectivity in Contemporary British Fiction and Culture

研究代表者

迫 桂（SAKO, Katsura）

慶應義塾大学・経済学部（日吉）・准教授

研究者番号：60548262

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000 円

研究成果の概要（和文）：世界的人口高齢化が進行する今、老いの経験を多角的に、かつ、主体的な視点から理解することの重要性が増している。本研究では、文化テキストにおける老いの表現を分析し、老いの文化的意味、及び、それを規定する価値体系を考察した。具体的には、欧米圏と日本で生産された小説、映画、漫画作品を主な対象として、老いの表現を分析した。特に、認知症と介護のテーマに注目し、表象と介護における倫理的側面について考えつつ、老いや認知症の言説の根底にある、人間主体についての考え方そのものを再検討した。結果として、文化作品が、老い・認知症の言説を再生産するのみならず、それを精査、修正、刷新しうることを示した。

研究成果の概要（英文）：As population ageing progresses globally, it is increasingly important to understand ageing from multiple and more importantly, subjective perspectives. Through the analysis of various cultural texts - novels, films and comics - from Anglo-European contexts and Japan, this project has examined the ways in which the experience and the meaning of ageing are shaped, culturally, socially and politically, and has interrogated the structure of ideas that underpins the discourse of ageing. Focusing on dementia and care in particular and the ethical questions they raise, it has reconsidered the normative conception of the human subjectivity and agency, which privileges independence and production, a conception that underlies the discourse that objectifies the ageing subject or the subject with dementia. The project has revealed different ways in which cultural texts may expand, as well as reproduce, the dominant discourse of ageing and dementia through imaginative narratives.

研究分野：英文学

キーワード：老い 認知症 medical humanities ジェロントロジー 病い ageing gerontology dementia

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は H20-23 年度科研費補助課題 (22720112)「戦後・現代イギリス文学における『老い』とその変容」において、現代社会における「老い」の理解を深めることを目的として、「老い」を文化的、身体的、文学的観点から考察した。その結果、「老い」が恐れと嫌悪の対象と捉えられる傾向が強い一方、「老い」の主体は不可視であることが問題として認識された。また、「老い」の文化社会的意味形成に、文学・文化作品が重要な役割を果たしていることが確認された。これを踏まえ、高齢化の進む社会において、老年期及び老年期にある人の主体が、他者化されることなく、いかに表象・理解されるかが大きな課題であることが明らかになった。

2. 研究の目的

上記の結果を踏まえ、本課題では、「老い」の経験と意味が構築される過程をより深く理解することを目的とした。老いの主体の表象（代理）の問題に注目し、文学・文化作品において老いがいかに描かれているか、さらに、それが老いの一般的言説について何を示唆するかを考察の課題とした。もう一つの目的として、「老い」の表象や意味形成に、表象媒体の形式が果たす役割をより正確に理解することを設定した。

3. 研究の方法

他者の表象（代理）問題という視点から、文学・文化における老いの主体性の表現と意味を分析した。具体的には、下記のプロジェクトに取り組んだ。

- (1) 女性作家の老いと物語研究
- (2) 認知症の文学・文化表象研究
- (3) 老いと身体文化研究
- (4) 映画にみる老いと身体文化の表象研究

主な分析対象は、欧米文化圏で生産された文学・文化テキストとした。また、表象媒体の形式やジャンルが果たす役割をより明らかにするために、ジャンル・フィクション、映画や漫画、演劇作品も分析した。また、欧米圏以外の「老い」の経験、意味の文化的形成を考察する目的で、日本のテキスト、漫画作品の分析、考察も行った。

分析方法としては、複数分野のジェロントロジー研究成果と文学・文化研究における理論や問題意識、実践を効果的に融合させることを目指した。

急速に発展が進む研究分野であるため、最新の研究動向を踏まえて、自分自身の研究を発展させる必要がある。この点で効果的な研

究手段として、国外の学術集会に積極的に出席し、研究者と交流、意見・情報交換を行うことを心がけた。

4. 研究成果

(1) 分析対象として考慮していた作家の一人、Margaret Drabble の作品を、歴史的文脈を踏まえつつ、ジェロントロジー研究の理論や議論に関連させて分析した。現代の新自由主義的風土において、新しいケアとコミュニティーを想像していると論じた。結果を国際学会で発表した（5.「学会発表」 参照）。

(2) 研究動向を鑑み、4つのうち最も新規性が高く、さらに、社会的意義が高いものと認識し、優先的に力を入れて取り組んだ課題である。文学・文化テキスト分析を通して、老い・認知症言説の根底にある、人間主体についての概念を問い直すことを目指した。特にフェミニズム倫理学やクィア理論を応用し、ケアの倫理や、independence, agency, ableness, vulnerability の理解の再考を試み、現代の新自由主義的思想風土における ableism 批判とつなげた。扱ったテーマの例は、認知症と探偵小説（5.「雑誌論文」 参照）子供向け絵本と認知症（5.「学会発表」 参照）などである。また、日本で生産された、媒体の異なる作品（小説 *The Twilight Years*（『恍惚の人』）、映画 *Memories of Tomorrow*（『明日の記憶』）、漫画 *Pecoross' Mother and Her Days*（『ペコロスの母に会いに行く』））も比較分析し、「老い」の意味が文化的に形成される様を示した（5.「雑誌論文」 参照）。研究成果は、共同研究者 Dr Sarah Falcus との共著図書として発表予定である。

(3) *Saga Magazine* という雑誌を対象に行う予定で、1次資料調査は終えていたが、他の課題を優先的に遂行するうちに、同雑誌を対象とし、近似した問題意識から立つ研究成果が発表された。研究領域全体の動向からしても、本課題の新規性が薄れたことから、遂行を中止した。

(4) 映画 5 作品(*Sex and the City 2*, *Under the Tuscan Sun*, *Eat, Pray, Love*, *Letters to Juliet*, *The Best Exotic Marigold Hotel*)をポストフェミニズムの文脈において比較分析した。ポストフェミニズム文化と老いの文化ともに、新自由主義的価値観が通底していることが明らかになった。各作品がこれらの文化・思想傾向を反映していること、しかし、一部作品ではそれらの批判も行っていることを示した（5.「図書」 参照）。

5. 主な発表論文等 （研究代表者は下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

Katsura Sako, 'Dementia and Detection in *Elizabeth Is Missing* and *Turn of Mind*', *Contemporary Women's Writing*, 10:3 (2016), pp. 315-333. doi: 10.1093/cww/vpw011. (査読有)

Katsura Sako & Sarah Falcus, 'Dementia, Care and Time in Post-war Japan: *The Twilight Years*, *Memoires of Tomorrow* and *Pecoross' Mother and Her Days*', *Feminist Review*, 111 (2015), pp. 88-108.
[doi:10.1057/fr.2015.36](https://doi.org/10.1057/fr.2015.36). (査読有)

Sarah Falcus & Katsura Sako, "'I Must Learn to Grow Old before I Die': Women, Ageing and Travels to Italy", *Women: A Cultural Review*, 25:2 (2014), pp. 194-214.
[10.1080/09574042.2014.944413](https://doi.org/10.1080/09574042.2014.944413). (査読有)

〔学会発表〕(計11件)

Sarah Falcus & Katsura Sako, 'Dementia and Generational Time in Kirsty Wark's *The Legacy of Elizabeth Pringle* (2014) and Adele Parks' *Whatever It Takes* (2012)', 13th Conference of the European Society for the Study of English (2016年8月25日 於: コーラルウェイ (アイルランド))

Sarah Falcus & Katsura Sako, 'Dementia in Literature' (Round Table), Symposium 'Ageing, Embodiment and the Self' (2016年3月18日 於: コペンハーゲン (英国))

Sarah Falcus & Katsura Sako, 'Dementia in Children's Picture Books' BAS Ageing, Body and Society Study Group Conference 2016: Ageing and Culture (2016年2月26日 於: マンチェスター (英国))

Katsura Sako, 'Dementia in Detective Fiction', 10th Anniversary Conference of Contemporary Women's Writing Association (2015年10月17日 於: ブライトン (英国))

Katsura Sako & Sarah Falcus, Thinking about Dementia Care and Ethics through Cultural Representations in Post-War Japan', 44th Annual BSG Conference 2015 (2015年7月1日 於: ニューカッスル (英国))

Sarah Falcus & Katsura Sako, 'Dementia in Children's Books', Inaugural Research Conference of the North American Network in

Aging Studies (NANAS) (2015年5月21日 於: オックスフォード (アメリカ合衆国))

Katsura Sako, 'Dementia and the Narrative of Detection', Inaugural Research Conference of the North American Network in Aging Studies (NANAS) (2015年5月20日 於: オックスフォード (アメリカ合衆国))

Katsura Sako, 'Dementia Time in Contemporary Fiction', University of Leicester School of English Research Seminar (2015年3月18日 於: レスター (英国))

Katsura Sako & Sarah Falcus, 'Representing Dementia and Care in Post-War Japan: *The Twilight Years*, *Memoires of Tomorrow* and *Pecoross' Mother and Her Days*', University of Huddersfield English Literature and Creative Writing Research Seminar (2014年12月10日 於: ハダースフィールド (英国))

Katsura Sako, 'Representing Growing Old in the Contemporary World: Margaret Drabble's *The Pure Gold Baby* (2013)', 'Contemporary Women's Writing and Environments', 5th Biennial International Conference of Contemporary Women's Writing Association (2014年7月5日 於: ミルボーン (オーストラリア))

Katsura Sako & Sarah Falcus, 'Representing Dementia and Care in Post-war Japan: *The Twilight Years*, *Memoires of Tomorrow* and *Pecoross' Mother and Her Days*', 2nd Conference of European Network in Aging Studies (2014年4月10日 於: コーラルウェイ (アイルランド))

〔図書〕(計1件)

Sarah Falcus & Katsura Sako, 'Women, Travelling and Later Life', *Ageing, Popular Culture and Contemporary Feminism: Harleys and Hormones*, eds. Imelda Whelehan and Joel Gwynne (London: Palgrave, 2014), pp. 203-18. (査読有)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年月日 :

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://k-ris.keio.ac.jp/Profiles/188/0018775/profile.html>

6．研究組織

(1)研究代表者

迫 桂 （SAKO, Katsura）

慶應義塾大学・経済学部・准教授

研究者番号： 60548262

(2)研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕

Dr Sarah Falcus, Senior Lecturer, School of Music, Humanities and Drama, University of Huddersfield, UK

〔その他の研究協力者〕

（ ）